

# ルールの理解は勝利への一歩だ！

試合運営委員会から選手の皆さんへ

第二部 第三回テーマ プランが変だったらどうすればいい？

今回は、前回に引き続き「プランについて」の議論を解説していきます。前回、「プランについて」出される議論について、それがなぜ自分たちの勝ちにつながるのか、メリット・デメリット比較方式の枠の中で説明してほしいという解説をしました。しかし、本当にメリットにもデメリットにも結び付かない議論が認められることはないのでしょうか？プランそのものが反駁の対象となることはないのでしょうか？これらについて、考えてみましょう。

## ◆プランは論議を肯定するためにある

プランが何のためにあるのか、「ご存知でしょうか。肯定側は、論議を肯定するためにプランを提示しているのです。ルールで言えば、次の箇所にあたります。

ルール本則第二条第一項  
肯定側立論は、論議を肯定するためのプランを示し、そのプランからどのようなメリットが発生するかを論証するものとします。(後略)

つまり、ルールでいう「プラン」やそこから発生する「メリット」は、どのようなものでもいいわけではなく、「論議を肯定するための」ものでなければなりません。ですから、もし肯定側のプランが「論議を肯定するためのものではない」と言えるなら、メリット・デメリットの比較以外の理由で否定側の勝ちと

なりません。論議の政策を実施する意味がなくなるため、現状維持の立場をとる否定側の勝利となるのです。具体的には、次の二つのケースが考えられます。

## ◆ケース1 プランと論議がズレている！

「日本は積極的安楽死を法的に認めるべきである」という論議で、「消極的安楽死を認める」というプランを提示したとし、発生するメリットがデメリットより大きい時、「日本は積極的安楽死を法的に認めるべき」でしょうか？

そうではありません。なぜなら、このプランからメリットが発生したとしても、それは『消極的安楽死を認めるべき根拠』であって、『積極的安楽死を認めるべき根拠』にならないからです。したがって、これは論議を肯定するためのプランとは言えません。注意してほしいのは、プランに論議の政策と異なる政策が含まれていることは問題ではないということです。例えば、「積極的安楽死を法的に認める」と同時に病院を増やす」というプランでも、『積極的安楽死を認めるべき根拠』が示されていれば論議は肯定されます。但し、積極的安楽死を認めずとも病院を増やせば発生するメリットがあった時、「そのメリットは論議を肯定する根拠とならない」と反駁することが可能です。

## ◆ケース2 そのプランは実現不可能！

もう一つの例として、プランの実行が不可能である場合があります。例えば、「失敗した時やり直せるようにタイムマシンを作ります」といった、現代の科学技術では不可能な場合です。他にも、論議があくまで「日本は」と定めている以上、「アメリカが」します」のような、主体が異なるプランは実現不可能です。このようなプランから発生するメリットでは論議を肯定できないため、否定側は、肯定側の勝ちになつていないと主張すべきです。

ケース1や2のように、明らかにプランが論議と合致しないことは、減多に起こるものではありません。否定側が反駁する時は、どこがどのように間違っているのか、審判を説得する必要があります。そして、それがどのように自分たちの勝ちに繋がるのかまでしっかりと主張しなければなりません。

同時に、肯定側は、プランを作る時にこのようなことにならないよう注意することが大切です。論議を肯定できていないかということ、そして「する」と「できない」は異なっているかということ…以上2点をしっかりと念頭に置いて、よいプラン作りをして下さい。

### 次回予告

今回は、質疑応答について、応答者の立場を中心に解説していきます。